「第１回若者ミーティング（２期生)」の概要及びフィードバックについて

１　開 催 日　　令和８年８月 19 日（水）　午後７時～午後９時

２　委員構成　　男性４名、女性５名（20～24 歳：２名　25～29 歳：２名　30 歳以上：５名）
大学生の方、仕事の都合で他県から町に来られた方、町出身で町外から関わっている方など

３　内　　容　　まちづくりに関する課題、提案等について町長と意見交換を実施

（１）町の特色、または魅力に感じるところ

No.	委　員	意　見
１	Ａさん 男性 25～29 歳	・アクセスが良く、ストレスなく過ごすことができ、住みやすい。 ・町のために頑張ろうと活動するエネルギッシュな人が多い。 宝積寺駅前の広場の取組がその活気に寄与していると思う。
２	Ｂさん 男性 20～24 歳	・人と人との距離が近く、絆が強いこと。 ・ほどよい規模であること。 ・昔から受け継がれてきた考え方や地域の文化を大切にする姿勢があり、地域への愛着や団結力につながっていると感じる。
３	Ｃさん 男性 25～29 歳	・安住神社、宝積寺駅、御料牧場、たかねざわ伝え隊、吹奏楽団、全国からマラソンファンが集まり箱根駅伝の青山学院大学や東海大学の選手も参加する元気あっぷハーフマラソン大会等、魅力のある点が数多く挙げられる。

4	Dさん 女性 20～24 歳	・地元の友達が好きで、成人式の実行委員会にも参加した。 ・鬼怒グリーンパークは宇都宮からもアクセスがよく、暑い夏に水遊びをする場として最適であるため、もっと全面的にアピールする必要がある。
5	Eさん 男性 30 歳以上	・特にないと思うので教えてほしい。
6	Fさん 女性 30 歳以上	・景観や交通利便性等、良い意味でちょうどいいと感じる。 ・子育て環境が充実しており、図書館や児童館の他、遊ぶ場所や過ごす場所も多い。 ・何もない町ではなく、人も場所も制度もしっかりしていると思う。 ・昔から住んでいる人も移住者も暮らしやすいと思う。
7	Gさん 女性 30 歳以上	・田畑等、豊かな緑の風景
8	Hさん 女性 30 歳以上	・子育てがしやすいこと。児童館や子育て支援センターが近隣の市町村と比べても充実しており、安心して子育てができる。 ・宝積寺駅から宇都宮駅へのアクセスが良く通勤や通学に便利。
9	Ｉさん 女性 30 歳以上	・交通アクセスが良く住みやすい。 ・副食費・第２子の保育料の助成など、独自の制度。

（２）町に必要なもの、提案及び第２回若者ミーティングでの町からのフィードバックについて

No.	委　員	意見	町長コメント	町からのフィードバック
1	Ａさん 男性 25～29 歳	① 町外への町の魅力発信が不足。インフルエンサー等と連携してはいかがか。たかねざわ伝え隊による情報発信も町外向けに工夫が必要と思う。	① 有名人の起用は一過性にとどまるおそれがあるため慎重に吟味する必要がある。 「たかねざわ伝え隊」の活動の方向性については模索中。	①たかねざわ伝え隊は、若者ミーティング１期生の話し合いにより、必要な情報が届けたい人に届いていないのではないかという課題感から発足した。現在は滑り出しのため町の見どころを写真中心に投稿しているが、町情報の発信や動画の活用も視野に入れ検討している。 また、町や町観光協会でも SNS での発信を行っており、町内の方への情報発信としてだけでなく町外の方にも町の魅力をPRできるよう努力していきたい。
		② 観光スポットに行く際の交通手段として、JR 宝積寺駅から観光バスを配置してはいかがか。また、近隣市町と連携することも有効であると思う。	② 現状、観光のために利用できる交通手段は宝積寺駅からのタクシーとデマンド交通での移動のみ。JR 宝積寺駅・新庁舎・道の駅たかねざわ元気あっぷむらを絡めた移動手段を検討中。 また、栃木県の広域的課題として「周遊観光」が鹿沼・日光・塩谷地区において挙がっており、二次交通の課題についても広域的に検討中。	② 町単独では観光面での多くの集客は難しく、利用者数の観点からも広域的な整備が有効である。 また､町中央部に新庁舎が整備されることや産業団地の整備が予定されていることから､デマンド交通「たんたん号」以外の公共交通で、市街地・農村集落･公共施設等を繋ぐネットワークの構築を検討する。

2	Ｂさん 男性 20～24 歳	① 若者が楽しめるお祭り等のイベントが減っている。既存のものの良さに気付くようになれば地域が盛り上がると思う。 （Ｆさんコメント） ・他市町で盆踊りのお祭りを復活させる動きがある。町の小学生が運動会で高根沢音頭を踊れると素敵だと思う。地域のコーディネーターや学校と連携するとよい。	① 現在は「たんたん祭り」を実施。平成 20 年まで開催していた「たかねピア盆踊り花火大会」を復活させようとする動きがあり、私も来年・再来年あたりの実現に向けて有志の方々と前向きに意見交換をしている。町の子どもたちに高根沢町を楽しんでもらい、長く住んでもらうためにも、ぜひ復活に向けて一緒に頑張っていきたい。	① たかねピア盆踊り花火大会について ○行政主体のたかねピアが休止となった理由 ・協賛金を含めた多額の運営費用の確保 ・役場職員を中心とした人員体制などの課題 ・盆踊りやみこしの参加者の減少　等 ○全国のお祭りの運営状況 ・物価・人件費の高騰や資金調達難、人手不足等の課題に直面 →持続可能な運営形態を目指し、企業や住民、NPO を主体とした実行委員会形式に移行するケースが主流に。→有志での開催が望ましい。 ○開催に当たって解決しなければならない課題 ・運営費や会場の確保 ・たかねピアに替わる新たな祭りとして実行委員会形式で始まった「たんたん祭り」との棲み分け等 ⇒町としては、具体化に向けた動きを見守りながら、どのような関わり方ができるのか、状況に応じて検討していきたい。

3	Ｃさん 男性 25～29 歳	① 他自治体と比べて魅力となる場所（温泉・カフェ等）が劣っていると感じる。例えば国道４号沿いに道の駅を建設する等、立ち寄る場所としての観光資源の構築をしてはいかがか。また、町民が集まって気軽に相談し合える場所を整備してはいかがか（タウンセンターの改修等）。	① 国道４号は国道 408 号と接続される予定であり、車の交通量増加が見込まれるため、交流拠点を設けたいと考えており、土地利用制限や鬼怒川の洪水浸水想定区域の関係について来年度調査を行うことも含め、今後の進め方を検討中。 交流拠点の内容としては、決まってはいないが農産物の販売やレストランで食事を楽しめるような道の駅を検討中。 また、温泉施設を有する既存の道の駅たかねざわ元気あっぷむらについても集客の工夫等を引き続き研究しつつ努力していきたい。	① 魅力向上策の一つとして、高根沢町産の食材を使用したご当地グルメ「高根沢ちゃんぽん」「高根沢焼ちゃんぽん」「高根沢お米・スイーツパン」「高根沢ジェラート」を『高根沢ローカルグルメ』として認定し、「食」のブランド化を図っている。今後、ローカルグルメ認定制度の内容を見直し、事業者の新たな挑戦と町の新たな名産品を創出していくことを検討しており、本年 10 月 1 日から『高根沢フード』の項目を新設し、高根沢産の農産物を原材料として使用した市販用の加工食品や、一般的なお土産品も認定できるようにしている。 人々が集まる場については、新庁舎内に人々の交流等に活かせる空間を設けることを検討している。 宝積寺タウンセンターについては、新庁舎への庁舎移転後は、一般的な当該地域の集会所として主に利用されることを想定している。
		② たかねざわ伝え隊による情報発信は写真よりも動画が良いと思う。また、町に来ていただいた方に自身の SNS での掲載を促すと口コミも豊富になると思う。	② 情報発信は町の知名度向上に欠かせないため、あらゆる方法を検討していきたい。	② 若者向けの情報発信には SNS が有効。SNS を効果的に活用できるよう研究していく。

4	Dさん 女性 20～24歳	① 町の娯楽施設が少なくなっている。町内に遊べるような場所が増えると良い。 ② 鬼怒グリーンパークがもっと活気のある場所になればよいと思うが、老朽化した設備の修繕や陸上アスレチック等の廃止された設備の復旧はできないか。	① 民間の店舗等は採算が取れないと判断されると出店先に選ばれず撤退されてしまうため難しい課題である。 ② 鬼怒グリーンパークは栃木県の施設であるため、町では整備ができないが、町から栃木県に必要に応じて修繕等の要望をすることは可能。	① 民間事業者の出店先に町を選んでもらえるよう、町の魅力向上・発信に努めていきたい。
5	Eさん 男性 30歳以上	① つくば市にはICT教育やアクティブラーニング、個別カリキュラムなどの特色がある義務教育学校があり魅力を感じている。町の小中学校統廃合の議論において義務教育学校を作るという選択肢はあったか。また、特に検討していない場合は、当該義務教育学校のような魅力のある教育形態について研究してはいかがか。	① 現在、東小学校と北高根沢中学校において施設併存型の小中一貫学校として小中一貫教育の形を取っていることもあり、小中学校統廃合の議論の中で義務教育学校の形を採用することは検討していない。また、既存の学校の他に学校を新設することは財源の観点からも難しい。	① 義務教育学校は、小中9年間を通じた小中一貫教育を行う小中一貫校の類型（設置形態）の1つである。町では、平成24年度から町全体で小中一貫教育に取り組み、平成30年度からは東小学校と北高根沢中学校を施設併設型の小中一貫校として開校し、小中一貫教育を学校教育の基盤と位置づけて推進してきた。今後も、設置形態によらず、町の学校教育の特色として町全体で小中一貫教育を推進していく考えである。また、全国の事例や動向を見定め、町の児童生徒に適する充実した教育内容を提供できるよう引き続き研究・工夫していきたい。

6	Ｆさん 女性 30 歳以上	① 町民が活動をしたい時の相談先、町民が困りごとを気軽に相談し合って繋がれる第３の居場所が必要と思う。	① 活動意欲のある人同士が繋がれるようにし、人々が気軽に相談し合える場所を作ることは有用。社会福祉協議会のボランティアセンターが、団体の紹介、団体の立ち上げ方への助言等を実施しており、参考になると思う。	① 民間でも、「マイマチ」や「カレント高根沢」等、ゆるく集える「場所」を運営している例がある。若者ミーティング１期生においても、情報発信事業を始めたり、元気あっぷむらで親子と地域のふれあいイベント（「おもちゃの広場」）を企画するなど、次の一歩を踏み出している段階にある。
7	Ｇさん 女性 30 歳以上	① 跡継ぎ問題等からか町内のお店が少なくなっており、食事や買い物に出かける際も大型商業施設のある宇都宮に行きがち。町内の店舗が活性化するとよいが、店舗に対する補助等はあるか。 ② 小児科に特化した病院がない等、子育て環境が未熟だと思う。町長は町において優先度が最も高い政策分野はどの分野であると考えるか。	① 新たに創業する方に対しては２年間の家賃補助制度を設けている。既存の店舗事業者に対してはそうした補助はない。 ② 教育と福祉を重要視している。福祉分野についてはこれまでも充実を図ってきたところであり、今後は教育分野の充実にさらに力を入れたい。	① 町では「魅力的で元気な事業者支援補助金」を設けており、社会状況の変化や消費者のニーズに合わせて事業者自らが考え実践する「新たなチャレンジ」を支援し、地域資源の活用による地域経済の活性化を目指している。 ② 教育・福祉ともに引き続き充実を図る。 産科・小児科専門病院の不足に対しては、町では令和２年度以降、１億円を上限とする補助を設けて産科誘致を行っているが、医師の負担の増大等を背景に開設が敬遠されている状況にある（小児科も同様）。 なお、子育て環境のより一層の整備として、24 時間オンライン相談の導入を検討している。

8	Hさん 女性 30歳以上	① 町内の公園はどれも駐車場が少なく、車で公園に行く人にとっては駐車場が充実しているとよいと思う（育児サークルで多く出ている意見）。	① 公園は主に近隣住民が利用することを目的としているため、駐車場を設けることは難しい。	
		② 近所に私人所有と思われる公園があり、遊具が老朽化していて危険である。どこに相談すればよいか。町で管理はできないのか。	② 私人所有の公園の場合、町は関与できない。当公園の現況を調べて後日個別に回答する。	② 当該公園は私人所有であるため町は管理できないが、所有者から管理の相談があった際には、町への移管も含め検討を行う。ただし、管理不全の場合は移管前に適切な状態に整備する必要がある。
		③ 子育てをする上で自治会に加入していることによる横のつながりは有用と感じる。若者が自治会に加入するメリットを作れないか。また、それを発信してはいかがか。	③ 町の自治会加入率が低く課題であるため、引き続き自治会と共に対応していく。	③ 自治会は本来、住民の皆様が主体となり、自分たちの地域の課題について話し合い、協力して解決していくための自主的な団体であると考えている。 一方で、時代の変化に伴い、自治会費や役員の負担感が課題となっているケースもあるため、今ある自治会の運営方法が現在のライフスタイルや地域の実情に合っているのか、それぞれの自治会が改めて見直し、考える機会を持つことが重要であると捉え、町では、自治会が抱える課題に対して町自治会連合会と協力しながら『自治会活動の手引き』の作成や『たんたんPASS』の財政支援を

				行ってきた。 自治会においても若者の自治会加入に繋がる有効的な方法を模索しているため、若者向けの自治会に加入するメリットの具体的な提案をいただければ、町自治会連合会と共有していきたい。
9	Ｉさん 女性 30 歳以上	① 町の知名度向上や集客、魅力を創出・発信する場づくりとして、キッズスペースを併設したカフェ等を設置してはいかがか。	① 地域の意見を踏まえつつ、廃校舎等を活かして人々に自由に利用いただけるような場を設けることは有用と考える。	① 財政状況や持続可能な行政運営の観点から、新たに大規模な施設を整備することは難しい状況のため、現在ある既存の施設、例えば「道の駅たかねざわ 元気あっぷむら」等の魅力をより一層高め、子育て世帯をはじめ多くの皆様に足を運んでいただけるよう工夫や環境づくりに力を入れているところである。 学校跡地の利活用については、町のみならず民間事業者の参入等、あらゆる可能性も含めて、まずは町として一定の方向性をお示しした上で、地域の皆さんの意見を踏まえつつ検討を進めていく予定である。
		② 保健センターの離乳食教室に参加した際、職員に質問をしても曖昧な回答をされてしまい、相談しにくい印象。	② 事実確認の上、町民の皆様にご迷惑がかからないように職員を指導する。	② 利用者に寄り添った対応を心掛けるよう改めて保健センター職員で共有した。

		③ JR宝積寺駅の線路付近を通る乗用車の運転マナーが悪く、子どもたちの登下校の際に危険なため、交通ルールの啓発や、小中学校での交通安全教室を実施してはいかがか。	③ 学校においては自転車の利用について指導している。今後も強化を呼びかける。	③ 警察・交通安全協会等と連携し、引き続き、交通安全の意識啓発に取り組んでいく。 小学校では、登校班での歩き方指導やスクールバスの乗降指導、中学校ではスタントマンの実演による交通安全指導教室や交通マナー指導を実施している。